



## 令和2年度 各種健診(検診)日程

問い合わせ 住民課 健康推進グループ ☎ 26-7871(総合ケアセンターゆくり内)

### 特定・基本健診、肝炎ウイルス検査、ピロリ菌抗体検査

対象となる方には、5月中旬に案内(質問票・受診券等含む)を郵送します。

#### 1. 地区巡回(集団)健診

健診料金：無料※

実施会場：町内2会場(詳細は個別案内参照)

実施期間：6月8日(月)～6月12日(金)

#### 2. 個別健診

健診料金：700円※

実施会場：あつまクリニック

実施期間：7月1日(水)～8月31日(月)の診療時間内

※健診料金…国保以外の方は、各保険者が設定する自己負担がかかります

健診区分	対象者	内容
特定健診	①40～74歳で、令和2年4月1日現在、厚真町国民健康保険に加入されている方 ②40～74歳で、国保以外の保険(協会けんぽ・各共済組合・健保組合等)加入者で、保険者より発行された <b>特定健診受診券</b> を手元にお持ちの被扶養者	・身体測定 ・腹囲測定 ・問診 ・血圧測定 ・血液検査 ・診察 ・心電図(医師が必要と認めた場合)
基本健康診査	①35～39歳および75歳以上で厚真町に住所を有する方 ②40歳以上の生活保護受給者で厚真町に住所を有する方	
肝炎ウイルス検査	①40・45・50・55・60・65歳で厚真町に住所を有する方 ②輸血等経歴のある方で今まで肝炎ウイルス検査を一度も受けたことのない方	・血液検査
ピロリ菌抗体検査	①40・45・50・55・60・65歳で厚真町に住所を有する方 ②20～34歳で厚真町に住所を有する方	

### 各種がん検診

申込み受付期間等の詳細については、日程が近づきましたら広報あつまなどでお知らせします。

※受付期間前の申し込み受け付けは行いません。

	胃がん検診	大腸がん検診	肺がん(結核)検診
対象	40歳以上	40歳以上	35歳以上
実施日	①7月5日(日)～7日(火) ②7月10日(金)～11日(土)	7月5日(日)～17日(金)	6月8日(月)～12日(金)
会場	①総合ケアセンターゆくり ②厚南会館	総合ケアセンターゆくり・厚南会館 (自宅検体(便)を採取し提出)	町内2施設 ※特定健診会場同様
負担金	1,500円	500円	無料
定員	600人	640人	—

	子宮がん検診	乳がん検診
対象	20歳以上で、元号が奇数年生まれ (※平成生まれは偶数年)	40歳以上で、元号が奇数年生まれ
実施日	12月3日(木)	12月3日(木)
会場	総合ケアセンターゆくり	総合ケアセンターゆくり
負担金	1,500円(対象外：5,850円)	50歳未満：2,000円(対象外：6,180円) 50歳以上：1,500円(対象外：5,150円)
定員	150人	70人(対象者優先)

#### 乳がん検診費用助成制度

医療機関で個別に受診した乳がん検診にかかる費用の一部を助成します。  
※保険適用は除く

#### 助成額

検診費用の2分の1  
(上限3,000円)

#### 申請に必要なもの

- ①乳がん検診を受けたことが明記された領収書
- ②印鑑
- ③通帳(後日振込み用)

	総合がん検診(胃・大腸・乳・子宮・前立腺)
対象	40歳以上 ※前立腺がん：50歳以上 ※乳がん、子宮がん検診の対象者は上記と同様
実施日	①11月12日(木)、②12月14日(月)
会場	札幌がん検診センター(対がん協会)※バスによる送迎あり
負担金	胃・大腸・乳・子宮：上記検診料と同様 前立腺：500円 ※受診する検診は選択できます。自己負担によるオプションもあります
定員	70人

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、今後日程が変更になる場合があります。日程変更の場合は、広報あつまや防災行政無線などでお知らせします。

### 厚真町 地域おこし 企業人

3年間の任期を  
振り返る



株式会社フェリシモ

三浦 卓也 さん (43歳)

地域おこし企業人として、3年間の任期が3月末に終了しました。新型コロナウイルス感染症のまん延もあり、厚真町の事務所に家財を残したまま、現在は神戸市の自宅でリモートワークに励んでいます。

#### —厚真町は、どのような3年間でしたか—

正直、当初は悩んだ時期もありました。僕が会社でできるのは何やら。貢献策を考える日々が続きました。ある日、自分の会社とつながりがある人の力も借りて、事業化できないかと考えました。その結果が、上厚真地区に設立した「株式会社Hode Tori」でした。北海道胆振東部地震。私も経験しました。「明日への希望」を社名に託し、社会的な課題に向き合う会社に対して投資やコンサルティングする事業につながりました。

—事業化には、人のつながりが欠かせませんよね—  
仕事を通じて、私が厚真町にお連れした人は、ざっと30人ほど。皆さん、同じ思いで同調してくれました。厚真を好きになってくれたのです。うれしかったです。もちろん、町民の皆さんたちの理解と協力が大きな原動力になりました。今、振り返ると、あっといふ間で、自分自身を成長させていたのだと思います。

—今後の活動は、いかがですか—  
今年度は神戸市で仕事をしますが、北海道から新たな事業のお話をいただいているので、時期をみながら厚真町の事務所でも仕事をします。これで終わりではありません。3月でひと区切りという感じでしょうか。

#### —町民の皆さんへひとこと—

これまででもそうですが、「厚真に帰ります」というのが癖になりました。もう一つ帰る町が増えました。町民の皆さん、さまざまな経験をさせていただき、ありがとうございます。新型コロナウイルス感染症に気を付けてください。これからもよろしくお願ひします。

### 生活支援相談員 だより

町社会福祉協議会 生活支援相談室 ☎29-7407

生活支援相談員は、被災された方の生活を見守り、健康状況や生活再建の課題などがあれば必要な連絡調整などの役割も担っています。北海道胆振東部地震の発生から約2カ月後の平成30年11月、北海道で初めて厚真町に生活支援相談員が配置されました。東日本大震災や熊本地震、西日本豪雨災害など、大規模な被災地では生活支援相談員の配置が重視され、全国的にはさまざまな被災地で配置されていますが、道内では初のケースでした。

昨年4月から今年3月までの1年間、活動件数は仮設住宅の訪問3,934件、在宅訪問488件、電話500件、チラシ配布等666件におよびます。仕事をされていて日中にお会いできないこともありますが、被災された皆さんの気持ちに寄り添いたい、周囲の様子を心に刻みながら訪問させていただいたこともあります。

これまで、地域の皆さんと一緒に涙を流したり、逆に励まされることもありました。皆さんの温かい気持ちを再発見し、つながり深めることができたのは貴重な経験です。今後も経験を積み重ね、これからの地域づくりに生かしていきたいと考えています。

### 災害ボランティアセンター だより

町災害ボランティアセンター ☎29-7407

厚真町災害ボランティアセンターで把握している活動実績は、平成30年9月11日の開設から延べ5,443人におよびます。実は、開設前の準備時期にもボランティアの協力がありました。例えば、災害ボランティアセンターに大きな一枚の地図があります。地図は、若い男女2人の手作りです。地震から3日後、数多くのペットボトルを持参して、札幌から避難所に駆けつけてくれました。住宅地図を拡大して貼り合わせた手作り、非常に見やすく活躍しました。

また、災害ボランティアセンターとは別に独自に活動されていたボランティア団体・個人も多く、民間団体の中には直接、支援が難しい活動にも柔軟に対応していただきました。活動実績に反映されていないボランティア活動は、相当数にのぼります。

災害ボランティアセンターの活動は、数字で表せないさまざまな皆さんの協力で成り立ちます。被災者の皆さんとの信頼関係が、協力をいただく大切な要素になりました。

